

平成 31 年／令和元年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況

Statistics of outpatients in the emergency room of Sunagawa city medical center
砂川市立病院事務局医事課

Division of patient care, Department of administration, Sunagawa City Medical Center

明円彬 平賀裕介 上村光 中村優 関口僚 川端祥子 市川史誠 小柳貴敬 倉島久徳

Akira Myoen Yusuke Hiraga Hikari Uemura Yu Nakamura Ryo Sekiguchi Sachiko Kawabata

Fuminari Ichikawa Takayuki Koyanagi Hisanori Kurashima

要旨

当院の平成 31 年／令和元年時間外受診者状況と救急車等患者搬入状況について集計を行ったので報告する。

Key words: Statistics, Outpatients, Emergency

はじめに

当院は、昭和 15 年の開院以来、幾多の困難を乗り越え中空知地域の基幹病院として地域センター病院、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センターなど数多くの指定を受けるに至っている。

昭和 43 年に建設された本館をはじめ施設の老朽化と狭隘等により新病院建設に着手し、平成 22 年 10 月に新本館を開院、翌年 10 月には南館を開院させ、地域住民が安心して受診できる施設整備と診療体制を構築してきた。

当地域に不足していた救急医療体制の整備を図り、平成 23 年 12 月には地域救命救急センターの指定を受け、平成 25 年 12 月には更なる重症患者の救命率向上を図ることを目的にドクターカーの運行を開始したところである。

調査方法

期間：平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日までの 1 年間

対象：救急外来時間外受診者、ドクターヘリ・ドクターカー受診者

方法：救急患者一覧表より集計

※時間外とは、平日の診療時間外（午後 5 時から翌日午前 8 時 30 分）と休日（土曜、日曜、祝祭日の午前 8 時 30 分から翌日午前 8 時 30 分）のことである。

調査内容

- 1) 来院方法 / 転帰（時間外受診者）（表 1）
- 2) 受付診療科 / 転帰（時間外受診者）（表 2）
- 3) 年齢層 / 転帰（時間外受診者）（表 3）
- 4) 住所（時間外受診者）（表 4）
- 5) ドクターヘリによる要請（搬入）状況（表 5）
- 6) ドクターカーによる要請（搬入）状況（表 6）

考察

表 1 より、診療時間外であろうと救急車はもちろんのこと、ドクターヘリ・他院からの転院搬送の受け入れを行っていることがわかる。また、独歩の患者さんも年間 8000 人以上来院しており、一次救急から三次救急まで・24 時間 365 日医療を提供していると言える。一方、独歩来院では 9 割弱、救急車来院でも 5 割程度は帰宅できている。また、経年比較で見ても、帰宅患者割合が毎年増加して

いる。このことから、患者さんに救急外来の役割を理解してもらうことや他病院の救急外来との連携の必要性も感じる。

表 2 より、救急科だけでなく、他 18 診療科で受付実績があることから、入院・帰宅にかかわらず必要に応じて容態に合わせた専門的な医療の提供が行なわれていたことがわかる。

表 3 より、前年同様に 0～9 歳が最も受診者の割合が高く、年々その割合も増加している。時間外の小児患者の受け入れが、最も求められている機能の一つである。

表 4 より、中空知医療圏が 86.9%（うち砂川市は 31.9%）、それ以外の地域が 13.1% 占めている。二次医療圏を超えた地域からも一定割合受診者がいることから、当院が地域救命救急センター病院として機能をしていることがわかる。住所患者割合では、滝川市が毎年上がっているが帰宅患者が大半である。当院が三次救急に力を注ぐためにも、他病院の救急外来と連携できる部分は連携していく必要がある。

表 5 より、入院を要する外傷が大半を占めている。

表 6 より、ドクターカーへの要請は 13 件あり、市内だけでなく近隣市町村からの要請もあり、重症患者の救命率向上を図れていると考えている。

おわりに

「地域救命救急センター病院」として中空知医療圏を中心に数多くの時間外受診者を受け入れてきた。当院の救急外来は地域に対して重要な役割を担っているのではなく、必要不可欠なものになっていることがこの集計で改めて認識した。地域に根ざし、地域に愛され、貢献する病院を実現するためにも、今後も統計の集計を続け、分析し、報告していきたい。